

第 1 回史跡探訪ウォーキング(定光寺)開催

6月2日(日)第1回史跡探訪ウォーキングが、掛川公民館と掛川地域力向上委員会の共催で行われました。25名の参加者があり、5名の方が長根地域力向上委員会から参加してくださいました。

今回は定光寺の見学です。直入橋を渡って長い石段を登って本堂の前に着きました。「定光寺は尾張徳川家とゆかりのある寺ですが、尾張徳川家の菩提寺は建中寺です。」と講師の



本堂(国指定重要文化財)



龍の門にて

富田彪さんから解説をしてもらいました。定光寺は室町時代(1336年)に開山され、現在の本堂は1534年に再建されました。尾張藩藩祖徳川義直の廟が寺の脇に造られたことから、定光寺は廟所と共によく知られるところとなりました。

定光寺は、定光寺町と下半田川町の多くの町民の菩提寺です。私たちの大切な定光寺をこれからも見守っていきたいと思います。



義直公の墓



主君の後を追って殉死した9名の墓



本堂裏のささゆり

絵本「山渡る風」完成 !!

会長 富田彪さん グループ長 川井信一さん に聞く

○ どうして「山渡る風」を制作することになったのですか。

富田 「三年前、コミュニティーグループで『掛川マップ』を作る企画が持ち上がりました。だれか絵心のある人に頼みたいと思い、水野金光さんに依頼することになりました。一年がかりで「掛川マップ」が完成しましたが、絵があまりにすばらしいので、このままにするのはもったいないという声が上がりました。そこで、この絵をもとにできるだけ地域の人たちが関わった絵本にしようと、56枚の絵について子どものころの思い出や、いわれなどをエッセイや詩などにして自由に書いていただくよう地域みなさんに呼びかけをしてこの企画が本格スタートしました。」

川井 「金光さんの絵をさらに生かして、掛川の人と歴史(文化)と自然が一つになったような本ができればいいなと思いました。」



○ 「山渡る風」の制作過程はどんな感じでしたか。苦勞したことはありましたか。

富田 「みなさんからの投稿文は本の中では活字ではなくて是非、手書き文字にしたいと思い、川井さんにお願いしました。」

川井 「文が伝わりやすい文字を、絵との調和を、と心がけました。」

富田 「川井さんは、書く道具も筆、鉛筆、コンテなど絵にあったものを使い分け、文字も黒一辺倒ではなく、色を変えたりその人その絵に合わせた書体にしていただいたりしているので時間のかかる本当に細かい仕事だったと思います。」

川井 「おもしろかったです。他のこともこれくらい楽しめるとういのですが。」

富田 「そうですね。楽しんで作業を進めることができたので、実際大変とか苦勞しているという思いはありませんでした。」

川井 「俳句の場合、自選で五句選んで貰い、その中から季節感などを考えて三句選びました。」

富田 「文は、絵を見ていろんな思いを書いてほしいと思っていたのですが、中には俳句など必ずしも絵に直接対応していないものもあります。でも、これはこれで自由な発想の絵本としてはいいのではないかと考えています。」

川井 「絵と文が直接に同じでなくてもよいのでは。その方が広がりがある。」

富田 「募集を呼び掛けた直後に、すぐ書いてくれた人がいて同じ絵に対して重複ができてしまいました。一方をお断りするのには心苦しかったです。」

川井 「原稿が少ない場合はお願いすればよいので。逆に多すぎたらどうしようと真剣に心配しました。」

シデゴザシ 咲く ふうさじ

富田 「絶対に書きたいと思っている人もいたし……。」

川井 「ここに住む人の人間味が出ればと、一番期待しました。」

○「山渡る風」の利用方法は？



富田 「掛川地域の人と自然と風景が、一冊に凝縮されていますからもっと外へ発信するきっかけにしたい。図書館には置きたいですね。会員だけではなく、つながりのある人たちにも読んでもらいたい。そうそう、市長さんが発刊を楽しみにしているということでした。また、同名の『山渡る風』(総会時の歌)がすばらしかったと言われました。」

川井 「歌のイメージに呼応する内容になりました。反応が楽しみ。」

○「山渡る風」の出版費用はどのようにされましたか。

富田 「当初は市からの補助金だけでと考えていたのですが、予算的にその半分を使ってしまうことになり、それはいかながなものか…というのがあって悩みました。地元企業に相談をもちかけたら4企業から協賛していただけることになり、支援を受けることができました。これは本当にありがたかったです。」

○「山渡る風」の校正はいかがでしたか。今後のことについてもお聞かせください。

川井 「下段の解説文はグループのメンバーが担当しましたが、言葉使いの統一には第三者の力を借りました。」

富田 「城嶺橋の親柱の文字は徳川家19代当主徳川義親氏の揮毫によるとされていますが、裏付けを取るのに最終的には愛知県建築部に対応してもらいました。元号と西暦を並列表記していますが、誤りのないようスタッフみんなでも確認しました。」

川井 「地域力の総力の結果です。小さな本ですが、内容は濃いと思う。」

富田 「いままでの流れのなかでこれからも発展的に考えていけたらと思っています。」

川井 「金光さんの絵は掛川の財産です。原画展もできたら。」

○今後増刷はありますか。

富田 「現状では増刷についてはなんとも言えません。反響しだいですね。中心メンバーの情熱と、たくさんの人との関わりの中で、1冊の絵本という形になりました。みなさんも手にとってじっくりと眺めていただけたらうれしいです。」

本日はありがとうございました。

絵本「山渡る風」に対するみなさんの感想をお聞かせください。
ぜひ、広報グループまたは事務局までお願いします。



会員の声

102 円の郷土愛

下半田川町 富田 恒

絵本「山渡る風」の元になったのは 56 枚におよぶ美しい絵はがきです。

その絵はがきに対する想い、そして掛川に対する想いを寄稿していただきました。

水野金光さんが描く掛川マップから美しい絵はがきが出来た。地域の先人から受け継いだ多くの遺産を絵はがきは教えてくれる。

今日、はがき・封書等はオールドメディアと呼ばれ、通信の手段として利用する機会が少なくなり、ラブレターという言葉は死語になってしまった。「青い山脈」の様な青春映画はもう出来ないだろう。

わたしは辞書を片手にはがきで思いを伝えている。絵はがきは通信欄が半分の面で済む「お仙泣かすな馬肥やせ」的に簡約出来るからよい。気取って、子規や山頭火の句を盗む。それに野良で鋤を振るう農夫の絵がぴったりする。

若いころ少しばかり転勤をしている。船員さんほどではないが、はがきの相手はある。わたしが「オオサンショウウオや猪と一緒に草深い山の中に住んでいる」と皆は同情してくれる。そんな連中に、案内をするから…と絵はがきで誘うが不徳の致すところか誰も乗ってきてはくれない。それでもぜひ知ってほしい所の

絵はがきが沢山ある。「下手な鉄砲…」の例えがある様に、あきらめずに当たるまで出し続ける覚悟である。後が無いから…。

限界集落だの消滅集落だのと揶揄されている掛川地域を元気にする、住みよい地域にする、と献身努力されている地域力向上委員会の方々に敬意を表させていただくと共に、わたしに出来ることの一つとして、決して邪心なく掛川の地のすばらしさを絵はがきで発信し続けることだと思っている。

題名の 102 円は、絵はがき代 40 円と切手代 62 円の合計です。



〈令和元年度掛川地域力向上委員会会計予算の訂正について〉

総会でみなさまにご承認いただきました令和元年度予算を市へ補助金申請したところ、収入・支出の合計に協賛金 23 万円と筍まつり特別会計からの繰入金 7 万円を加えること、また、一部支出科目の変更を指摘されました。このことは、6 月 20 日に開催された運営委員会に報告し、挟み込み別紙のとおり予算を訂正しました。

書面をもってのご報告となりますが、何卒ご理解賜りますようお願いいたします。

〈補助員さん・ボランティアさん募集しています〉～かけがわっ子ひろばより～

かけがわっ子ひろばでは日々の活動にご協力いただける地域の方を募集しています。子どもたちとトランプやゲーム、工作など放課後の時間を共に過ごしていただければと思います。

詳しくは、登録用紙を配付いたしますのでご参照ください。ご協力よろしくをお願いいたします。